

鳴子ダムが江合川下流の洪水を低減 ～4月上旬としては初の洪水調節～

- ・ 鳴子ダムでは、4月7日の低気圧の影響による大雨に対し、ダムへの流入量約2,800千m³を一時貯め込み、下流河川の水位低下及び被害の軽減に努めました。
- ・ 鳴子ダムとしては今回で33回目の洪水調節^(※1)となりますが、4月上旬としては初めてとなります。
- ・ 江合川の流量を最大で146m³/s低減しました。

1. 鳴子ダム流域の状況

- ・ 鳴子ダム流域では、低気圧の影響により4月6日夜から4月7日未明にかけて最大時間雨量7mm(流域平均)を記録するなど時間雨量5mmを超える降雨が断続的に続き、短時間(9時間)で累加雨量40mmを超え最終累加雨量67mm(流域平均)となる大雨となりました。この降雨により融雪が進み出水となりました。

2. 鳴子ダムの効果

- ・ 鳴子ダムへの最大流入量は250.12m³/s(4月7日5時10分)を記録しました。(非洪水期では既往第11番目、全体では33番目)
- ・ 鳴子ダムでは今回の出水で流入量の約40%の2,800千m³(東京ドーム約2.3杯分)を貯留し、下流河川の被害軽減に努めました。
- ・ 鳴子ダムが無かった場合を想定すると、涌谷地点で最大約1.60m^(※2)の水位の低下に努めました。

※1 洪水調節とは、降雨等によってダム貯水池に洪水量(鳴子ダムでは250m³/s)の流入があった場合、ダムに一時的に水をためて流入量より少ない水を下流河川に流すことにより下流河川の水位の上昇を低減するものです。

※2 涌谷地点の最大流量(204.12m³/s)+鳴子ダムのカット量(146.08m³/s)の流量が流れた場合の水位から計算しており、新江合川への分流は想定しておりません。

(別添資料参照)

問い合わせ先

国土交通省 東北地方整備局 鳴子ダム管理所

所長 松川 正彦

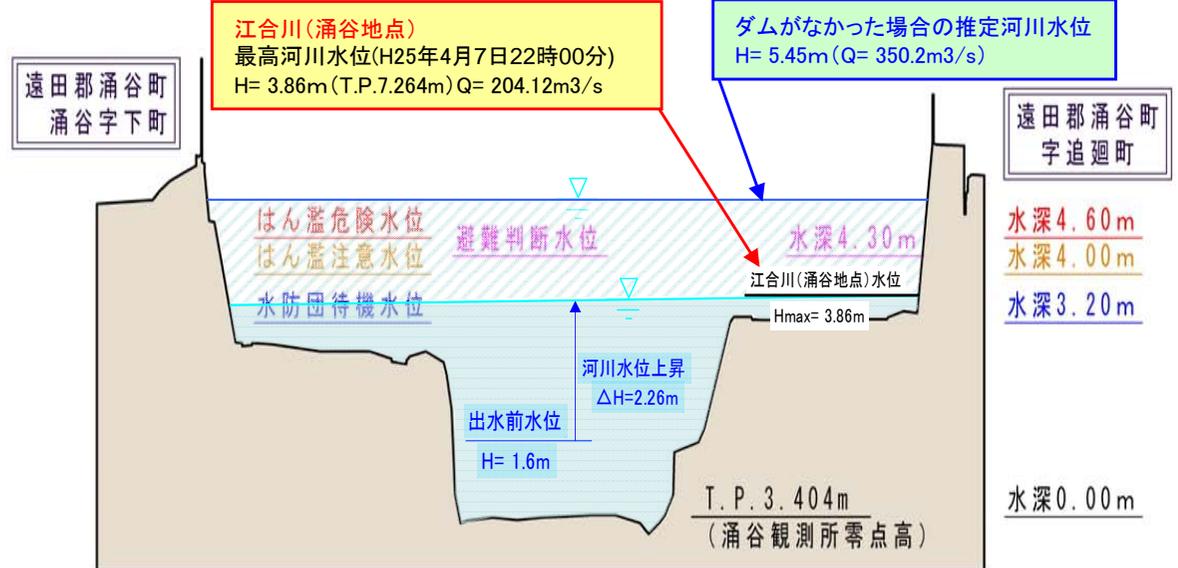
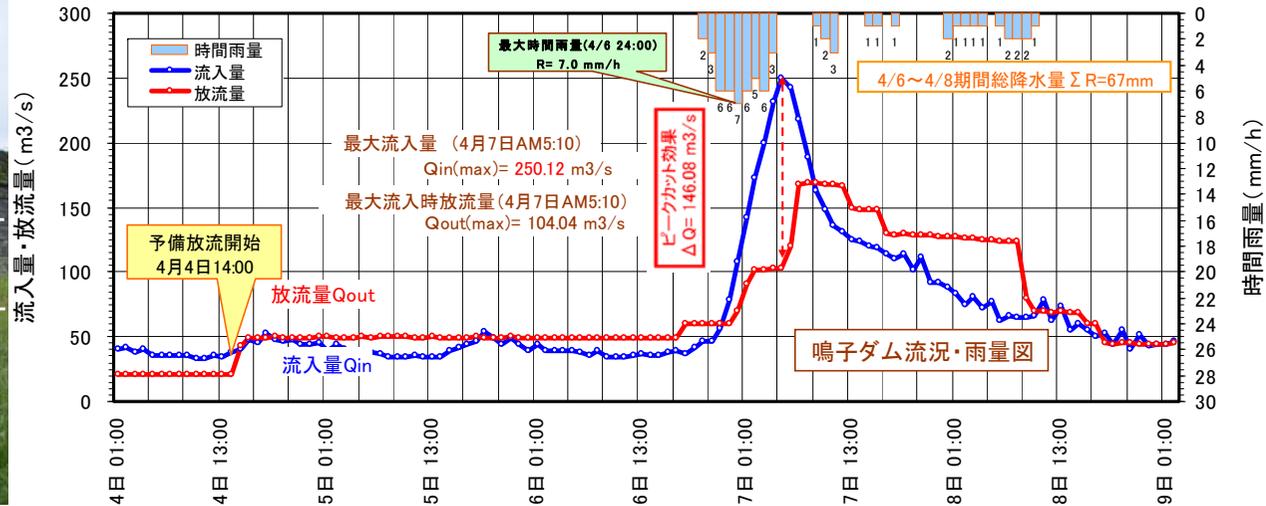
専門職 浅野 隆郎

〒989-6806 宮城県大崎市鳴子温泉字岩淵2-8

TEL 0229-82-2341 FAX 0229-83-3855

北上川水系江合川 鳴子ダムの防災効果 (平成25年4月7日出水・低気圧)

- 鳴子ダム流域で平成25年4月6日20時～4月8日10時にかけて累計67mm(最大時間雨量7mm/h)の降水が発生しました。
- 鳴子ダムの洪水調節操作により、洪水流入量2,800千m³の貯留と最大146m³/sのピークカットを行い、江合川流域の洪水被害の軽減化を図りました。
- 鳴子ダムから約50km下流に位置する涌谷地点(宮城県遠田郡涌谷町)では、河川水位を約1.60m低減させる効果※があったと推測され、仮にダムが無かった場合、河川水位は「はん濫危険水位」を0.85m超過していたと予測されます。



江合川(涌谷地点)河道断面図 [10.8k下流付近]

※涌谷地点における河川水位低減効果量約1.60mは、洪水流が新江合川で分流しなかった場合を想定しており、最危険側で算出した概略値である。